

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	23	学 校 名	掛川特別支援学校御前崎分校	校 長 名	赤澤 智子
------	----	-------	---------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 専 門 性	（ア）学習指導要領を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を通した実践力と専門性のレベルアップ	個別の指導計画の目標について達成することができたと答える教職員 100%	A 38.9% B 55.6%	B	・見える化として流れを示すことが有効だった。 ・年間指導計画の視点や方法を定着させ、より生徒の実態に即した目標設定を目指していく。
		適切な目標を設定し、授業実践や授業改善を行ったと答える教職員 100%	【教職員】 A 38.9% B 61.1%	B	・生徒の目指す姿について、定期的に学部研修で検討をしたため、目指す姿に迫るための有効な支援や手立てを考えることができた。
		授業の中で主体的に学び・考え・取り組んだり、仲間とともに活動したりすることができた答える生徒 90%以上	【生徒】 A 37.1% B 54.3% C 5.7% 無 2.9%		・生徒アンケートは担任が質問事項を読み上げ、内容理解を促したうえでの回答のため、A B評価 91.4%は信頼できる評価だと捉えた。
		校内研修の充実により教員の進路指導力が向上し、生徒一人一人の進路相談に生かすことができたと答える教職員 100%	A 33.3% B 55.6%	B	・働く力の土台には健康管理や日常生活の管理があることを再認識し、生徒の日々の生活を振り返り、改善する気づきとなった。 ・分校の進路指導方針について教員の理解をさらに深める。
	（イ）学校体制や取組むカリキュラムマネジメントと「いきいき学び、地域と共によりよく生きる人」を育てる授業づくりの推進	年間指導計画一覧（シラバス）について評価し、検討することができたと答える教職員 100%	A 44.4% B 50%	B	・一覧ができて2年目の今年度は、学年会、教科会、主任者会、学部と年間指導計画を検討する一連の流れができた。評価に関する振り返りは、次年度の課題とする。
		卒業後の夢の実現に向けて、今、取り組むべき目標について答え、行動することができた生徒 90%以上	1年 92.9% 2年 81.8% 3年 90.9%	B	・生徒の個々の実態に応じた作業日誌を活用することができた。今後、学部全体で夢の実現シートを活用できるようにしていく。

	(ウ)心理的安定性の確保と月45時間以内を目指した働き方改革の推進	「働きがいとワークライフバランスの視点で業務改善できた」と答える教職員 90%以上	A 44.4% B 38.9% C 16.7%	B	・授業の担当人数や優先業務に対する空き時間の確保など学年内で調整できた。学年間でも調整できるように他学年の動静を把握しておくとともによい。
イ 安全・安心	(ア)生徒が安全に安心して生活できる教育環境の整備及び事故等の未然防止への行動力と有事への対応力の向上	安全・安心な環境整備や再発防止の対策及び情報共有ができたと答える教職員 100% 生徒の重大事故 0	【教職員】 A 50% B 50% 【生徒】 達成	A	・毎月の安全点検の際に掲示板へ留意点を掲載し、点検ポイントを絞ったことが学習環境の安全性を高めた。その後の修繕等の依頼方法については周知徹底を図る必要がある。
		危機管理マニュアルを理解し緊急事態に即した行動をとることができる と答える教職員 100% 交通加害事故 0 情報機器・個人情報紛失 0	A 27.8% B 50% C 22.2% 交通事故 1 件 情報関係 0 件	C	・マニュアルの一部差替えは実施したが、改訂ポイントや有事の際の役割分担などの説明は不足していた。 ・交通事故は教職員の帰宅途上で発生した。 ・情報機器・個人情報の流出はない。
		学習をとおして、自分の身を守るために必要なことを理解し、行動する力がついたと答える生徒 90%以上	A 65.7% B 31.4% C 2.9%	B	・生徒は避難訓練の積み重ねにより、地震の際の1次避難が定着していた。 ・自主通学の生徒が通学途上で有事の際に避難行動がとれるかについて、家庭と連携する必要がある。
	(イ)教職員、生徒の人権意識を向上し、他者も自分も大切に作る心の醸成	自分自身の気持ちや体調を整える方法を知り、実践することができたとする生徒 90%以上	A 22.2% B 61.1% C 5.6%	B	・今まで身に付けてきた方法や分校で教員から教わった方法など情緒面では 50 項目、体調面では 43 項目が実践内容として生徒アンケートに記述されていた。
		常に人権に配慮し、生徒及び教職員にかかわったと答える教職員 100%	A 61.1% B 38.9%	A	・学期 1 回のチェックシートによる自己評価と月 1 回の不祥事根絶研修（県のコンプライアンス通信含む）での話により、危機意識の持続に努めた
		相手を尊重し、学校生活での約束を守って生活することができた と答える生徒 90%以上 いじめ・人権侵害 0	A 54.3% B 40% C 5.7% いじめ等 0 件	A	・生活アンケートに記述のあった生徒への個別面談を実施したが、いじめに該当する対人関係のもつれは認められなかった。また、夏季休業中に深夜はいかいいによる警察案件が 1 件あった。

ウ 連 携	(ア) よりよく生きる人を 目指した学校と家庭、地 域・関係機関等との協働強化	池新田高校との交流について生徒及び教職員の肯定的評価 90%以上	【生徒】 A 74.3% B 17.1% 【教職員】 A 44.4% B 55.6%	B	・対人関係に苦手意識のある生徒はいるが、全体的には良い評価を得ている。 (C, D, 無回答 各1人) ・生徒自身が活動目標を考え、教師と確認することにより、目標を達成できる生徒が増えてきている。
	(イ) 地域資源 (人・もの・こと) への深い理解とそれを活かした実践 や発信	地域資源を生かした教育内容の充実が図られたと答える教職員 100%	A 33.3% B 55.6% C 5.6%	B	・事前打合せにおいて学習目的や生徒の実態を中心に話し合うことにより、生徒の思考に沿った授業を展開することができた。
		進路に対し必要な情報を得ることができ、進路選択及び決定することができたと答える保護者 100%	A 53% B 47%	A	・1年生の保護者への実習説明を夏季休業前後に行ったが、早くから動き出す保護者もいたので、次年度は夏季休業前に進路面談を実施したい。他学年の保護者の要望はない。
		御前崎分校の教育活動や魅力について計画的に発信することができたと答える教職員 100%	A 66.7% B 27.8% C 5.6%	A	・HP全体計画の提示や掲載担当の輪番制などの意識づけにより、週1回の定期的な情報発信ができた。保護者には週予定やコクーにて適時性のある情報発信をした。
		特別支援教育に関する地域からの相談及び連携についての対応・支援 100%	対応・支援 100%	A	・保護者への講話依頼のあった浜岡東小へコーディネーターを派遣した。御前崎市をはじめとする地域関係機関との連携は極めて良好である。